

日本オペレーションズ・リサーチ学会

1964 年度総会記事

1) 1963年度事業報告

1. 1963年度の主な会合

(1) 5月9・10日に1963年度総会並びに第13回研究発表会を成蹊大学において開催した。翌11日には、鉄道技研の見学と東海道新幹線に試乗した。

(1) 10月2・3日に第14回研究発表会を札幌の国鉄職員集会所で開催した。翌4日には札幌市内を見学した。

2. 刊行物

「経営科学」6巻4号, 7巻1, 2, 3号を発行した。7巻4号は5月中旬に発行の予定である。「JORSJ」Vol 5, No. 4, Vol 6, No. 1, 2, 3を発行した。Vol 6, No. 4は5月中旬に発行の予定である。

3. IAOR への協力

前年度に引続き IAOR のための国内の OR 文献の抄録活動を行なった。また、この期間中に刊さ行れた IAOR Vol 2, No. 1~5 Vol 3, No. 1を予約会員に頒布した。

4. IFORS へ代表派遣

第3回 IFORS 大会が6月30日より7月5日までオスローで開催されたが、我が国からも松田武彦, 矢部真, 服部正, 稲葉長滋, 江副達男(敬称略)の計5人が参加した。

5. TIMS に共催

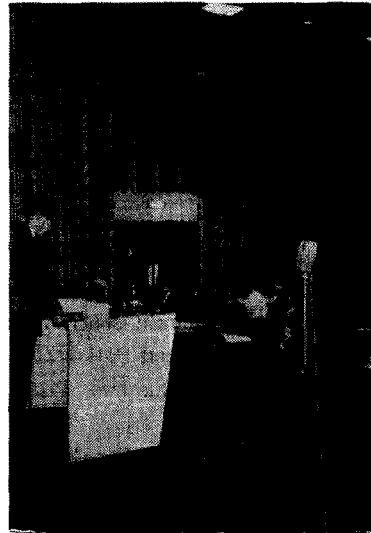
TIMS 第6回国際大会が8月21日より24日までの4日間パレスホテルにて開催されたが、当学会もこれに共催し、協力した。

6. 研究会

研究会運営委員会を設け、2回ほど開催し、内規活動方針等について討議した。

7. 会員の状況

	通常会員	学生会員	賛助会員
1962年度末	732	71	111
1963年度整理	59	7	
1963年度退会	18	1	10
1963年度入会	57	21	12
1963年度学生 より	6	6	
1963年度末	718	78	113



2) 1963年度決算報告書

1. 1964年5月8日に開催された評議員会の承認に基き、1963年4月1日から1964年3月31日に至る会計年度内の収支を次のとおりまとめた。

貸借対照表

昭和39年3月31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	14,869	前 受 金	18,600
振替貯金	5,689	運営繰越	1,331,656
小 切 手 払 口 座	227,316	当期繰越金	712,893
普通預金	365,489		
当座預金	686		
通知預金	500,000		
過 年 度 未 収 金	284,500		
未 収 金	714,600		
合 計	2,113,149	合 計	2,113,149

収 支 計 算 書

自 昭和38年4月1日

至 昭和39年3月31日

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
刊 行 費	1,498,046	贊 助 會 費	2,660,000
大 會 費	334,025	入 會 金	31,400
通 信 費	312,105	會 費	1,304,184
(通 信 發 送 費)	(239,320)	雜 收 入	211,702
(通 信 事 務 費)	(72,785)		
會 合 費	83,870		
印 刷 費	49,675		
編 集 費	172,226		
事 務 費	361,505		
事 務 用 消 耗 品 費	25,735		
支 部 費	222,000		
交 通 費	55,515		
手 數 料	19,447		
I F O R S 費	63,861		
I A O R 費	21,848		
研 究 討 論 會 費	16,005		
會 費 徵 收 不 能	210,000		
雜 費	43,530		
當 期 繰 越 金	712,893		
合 計	4,207,286	合 計	4,207,286

会 則 の 変 更 お よ び 補 足

条	現 行	改 正 案
第 3 条	<p>本会には分科会および地方支部を置くことが出来る。</p> <p><u>分科会および、地方支部の設置および運営の基準は別に定める。</u></p>	<p>本会には分科会および地方支部を置くことが出来る。</p>
第 9 条	<p>会員は次の権利を有するものとする。</p> <p>ただし学生会員は第4項の権利を有しない。</p> <p>1) 本会の事業に関する通知を受け、<u>その学術的会合に参加する。</u></p>	<p>会員は次の権利を有するものとする。</p> <p>ただし学生会員は第4項の権利を有しない。</p> <p>1) 本会の事業に関する通知を受け、<u>研究発表会および講演会に参加する。</u></p>
第 12 条	<p>本会には次の役員をおくこととする。</p> <p>6) 評議員 <u>40名以上</u> <u>60名以内</u></p>	<p>本会には、次の役員をおくこととする。</p> <p>6) 評議員 <u>80名以内</u></p>
第 21 条	<p>理事会は<u>随時会合を行ない評議員会の決定した方針に従い会務を執行する。</u></p>	<p>理事会は<u>必要の都度会合を行ない総会の承認に基づき会務を執行する。</u></p>
第 23 条	<p><u>第 23 条</u></p> <p>第 6 章 <u>会計年度</u></p>	<p><u>フェローは理事会および評議員会に出席して意見を述べる事ができる。</u></p> <p><u>第 24 条</u></p> <p>第 6 章 <u>分科会</u></p>
第 25 条		<p>本会の目的達成のため、<u>特定の分野について専門的審議を要するときは総会の承認を得て分科会（〇〇分科会という）をおくことができる。</u></p> <p><u>第 7 章 地方支部</u></p>
第 26 条		<p><u>地域的活動を通じて本会の目的を達成す</u></p>

条	現 行	改 正 案
	<p style="text-align: center;"><u>第 24 条</u></p> <p style="text-align: center;"><u>第 25 条</u></p> <p>この会則は、<u>総会および理事会</u>で出席者数の3分の2以上の賛成を得て変更することができる。</p>	<p>るために総会の承認を得て地方支部（〇〇地方支部という）をおくことができる。</p> <p>1) <u>地方支部の事業計画および予算は総会の審議を経るものとする。</u></p> <p>2) <u>地方支部には、地方支部長1, 地方副支部長, その他の地方支部役員をおくことができる。</u></p> <p>3) <u>地方支部は、本会規則に準じて地方支部規則を制定することができる。</u></p> <p style="text-align: center;"><u>第 8 章 会計年度</u></p> <p style="text-align: center;"><u>第 27 条</u></p> <p style="text-align: center;"><u>第 9 章 会則の変更</u></p> <p style="text-align: center;"><u>第 25 条</u></p> <p>この会則は総会で出席者数の3分の2以上の賛成を得て変更することができる。</p> <p>附則 この会則は<u>1964年5月15日</u>より施行する。</p>

3) 1964年度事業計画

1. 研究発表会

春秋2回開催し、春は東京において総会と同時に行ない、秋は大阪において行なう。

2. 刊行物

「経営科学」および「JORSJ」を各5回発行する。名簿を発行する。

3. 海外との交流

(イ) IFORS への協力を続ける。

(ロ) アメリカ西部OR学会年次大会への共催および講演

(ハ) 海外より来訪するOR専門家との接触の機会を作る。

4. 研究会

会員相互の研磨の機関とすると共に外部よりの委託研究に応じ活動を活発にする。

5. ORチームの派遣について

アメリカOR学会西部支部の第10回年次大会およびTIMS—ORSA National MeetingにORチームを編成し参加する。

4) 1964 年度 予 算

収 入 の 部

科 目	金 額	摘 要
通常会員会費	970,000	会員718名の内75%の入金を見込む 539名×1,800=970,200
学生会員会費	45,000	増員 50名 50名× 900= 45,000
入 会 金	25,000	増員 50名 50名× 500= 25,000
賛 助 会 費	2,900,000	38年度予算と同額で見込む 実績 2,660,000
I A O R 費	150,000	250名×600=150,000
雑 収 入	200,000	研究会費
過 年 度 未 収 金	400,000	
繰 越 金	1,114,049	
	5,804,049	

支 出 の 部

科 目	金 額	摘 要
刊 行 費	2,050,000	5号分刊行として 経営科学 210,000×5回=1,050,000 JORSJ 200,000×5回=1,000,000
大 会 費	367,000	従来の実績より1割増の費用を見込む
通 信 費	370,000	従来の実績により
(通信発送費)	(300,000)	60,000×5回=300,000
(通信事務費)	(70,000)	" 70,000
会 合 費	124,000	評議員会 10,000×2回=20,000 理事会 10,000×8回=80,000 幹事会 2,000×12回=24,000
印 刷 費	160,000	名 簿 100,000 38年度実績より 60,000

科 目	金 額	摘 要
事 務 費	580,000	37年度理事会に於て、事務費は予算の10%以下とする 事務員費 $20,000 \times 7 = 140,000$ " $22,000 \times 8 = 176,000$ アルバイト $100日 \times 900 = 90,000$ 消耗品費 134,000 その他
支 部 費	261,000	関西支部 80,000 中部支部 151,000 北海道支部 30,000
交 通 費	100,000	運 動 費 $900 \times 12回 = 10,800$ 立替交通費 $1,500 \times 12回 = 18,000$ 会合交通費 IAOR 4名 月1回 @150 $450 \times 12回 = 7,200$ IAOR (アブストラクト) 20名 $\times 150 = 3,000$ 幹事会 $10名 \times @150 \times 12回 = 18,000$ 刊行物 $15名 \times @150 \times 6回 = 13,500$ 大会旅費 30,000 計 99,780 切上げ
編 集 費	280,000	資料調査費 特別講演 3名 $@5,000 \times 2回 \times 3 = 30,000$ " 原稿料 $@30,000 \times 5回 = 150,000$ 刊行物委員会 $3,000 \times 12回 = 36,000$ IAOR資料調査費 1編 $@500 \times 100名 = 5,000$ IAOR委員会 5名 $@1,250 \times 12回 = 15,000$ 計 281,000
手 数 料	42,000	普通会员 $@ 50 \times 580名 = 29,000$ 賛助会員 $@100 \times 50件 = 5,000$ IAOR $@ 35 \times 250名 = 8,750$ 計 42,750

科 目	金 額	摘 要
I F O R S	35,000	1964年度分
事務移転費	200,000	運送費, 什器備品の購入
I A O R 誌	240,000	Vol. No. 2 No. 3 @120,000×2回
研究会費	400,000	研究会, 討論会費 2名×@100,000=200,000 研究会準備費 200,000
予備費	350,000	
雑費	245,049	
計	5,804,049	

5) 1964年度評議員名簿

朝尾 正	池永 英夫	石川 馨	千住 鎮雄	高橋浩一郎	多田 和夫
井上文左衛門	井上 洋一	今居 謙吾	田原 保二	西田 俊夫	西沢 勇
今井 勇	弥永 昌吉	植木 繁	野田 信夫	原野 秀永	藤森 謙一
宇田川銚久	小野 勝次	小野木次郎	前田 活郎	増山元三郎	松田 武彦
柏井 澄夫	春日井 博	加藤 二郎	松田 正一	三根 久	水谷 一雄
門川 清美	茅野 健	河田 竜夫	南川 利雄	宮沢 光一	宮脇 一男
河村 知男	景山 文蔵	国沢 清典	森口 繁一	森村 英典	本告 光男
河辺 旨	木暮 正夫	古瀬 大六	安川第五郎	山口 襄	山口 英治
小平 潔	小柳 賢一	米谷 栄二	矢部 真	湯川 竜二	横山 勝義
近藤 次郎	後藤 正夫	佐治 信男	横山 保	吉田 弘一	吉山 博吉
菅波 三郎	関 和文	関 英男	渡辺 浩		

1964 年度秋季研究発表会のお知らせ

(1) 研究発表会

- イ 日時 11月5日(木) 9時~16時
11月6日(金) 9時~16時
ロ 場所 甲南大学2号館6階67号室
(神戸市東灘区本山町岡本)
TEL (神戸) 85局0541

(2) 懇親会

- イ 日時 11月5日(木) 16時~18時
ロ 場所 甲南大学職員食堂
ハ 会費 600円

(3) 見学会

- イ 11月7日(土) 9時~16時
ロ 場所 名神高速道路——東洋レーヨン中央研究所(大津)——彦根城
ハ 会費 400円
ニ 定員 申込み着順60名で締切ります
(4) 研究発表会 懇親会 見学会に参加の御希望の方は9月30日までに御連絡下さい
(5) 研究発表会に発表される方は返信ハガキで9月30日までに御申込み下さい
講演内容アブストラクトは10月15日までに下記宛御送り下さい
大阪市東区安土町2-1(安土町野村ビル)
日本規格協会関西支部内
日本オペレーションズ・リサーチ学会関西支部